

(資料)

REFRANERO ESPANOL (26)

スペインの諺辞典

Bernardo Villasanz*(ed.)

新 井 藍 子**

1089. No es lo mismo predicar que dar trigo.

説教するのと 小麦を上げるのは 同じではない

- 忠告するほうが、忠告したことを実行するよりずっと易しいということ。(スペイン王立アカデミー辞書)
- スペインの同義の諺は次ぎのようにいくつかある；“A buen salvo está el que repica. 警鐘ならす者に、火の粉はかからぬ”(筆者の諺辞典、諺 4 を参照。人は、自分の身に火の粉がかからないと知っている場合には、何とでも忠告できる。), “Del dicho al hecho hay gran trecho. 言うことと、行うことには、大きなへだたりがある。”(同辞典、諺 391 を参照), “No entra en misa la campana y a todos llama. 鐘はミサに加わらないが、皆に呼びかける”(良い忠告は与えるが、それを手本に示さないで説教だけですますような者をいう。—パロス諺集), “Más fácil hablar que obrar. 言うは行うより易し”(スバルビィ諺辞典), “Más fácil recetar que curar. 処方するは治療するより易し”(同辞典) など。
- 日本の諺には、同義で“言うは易く行うは難し”, “高見の見物”, “対岸の火事”,

* Edición y revisión. Facultad de Humanidades. Universidad de Fukuoka.

** Profesora de español en la Universidad de Fukuoka (Facultad de Humanidades).

“川向こうの喧嘩”，“山門から喧嘩見る”などがある，いずれも，人と深く関わり合うことをせずに気楽な気持ちで傍観することをいう。

1090. No es música el casar, que suena bien alto y bajo.

結婚とは とても高い音や 低い音を響かせる 音楽ではない

- 非常に異なった条件の者同士が結婚するのを反対している。(バロス)
- つまり，“Cada oveja con su pareja. 牛は牛連れ，馬は馬連れ”（筆者の諺辞典，諺196を参照），“Todas las aves, con sus pares, o todas las aves buscan, sus iguales. 鳥にも似合いのつれ，或は，どんな鳥も似合いのつれを探す”，“La compañía, para honor, antes con tu igual que con tu mayor. 信頼のおける連れを得るには，上の者を探すより似た者を”（人は背伸びしてつき合ったり，つき合いにより偉くならろうとしたり，己を下げて下の者とつき合ったりするよりは，同等の立場の者とつき合うのが良い。）などの諺がおしえてるように，似合いの者同士がうまくいくとたとえて言う。

1091. No es nada, que del humo llora.

何でもない 煙で泣いているんだから

- 人がある大変な事をしでかしてしまったのに，それほど大したことではないと，ささいな事にしてしまう時に言う。(バロス)
- コレアス諺集には，標題の諺の他に，同義でユーモアたっぷりで，かなり誇張表現の次ぎのような一連の諺がある；“No es nada, que por fuera cae. 何でもない，外に落ちてても”，“No es nada, sino que matan a mi marido. 何でもない，わたしの夫が殺されただけだ”，“No es nada la meada, y calaba siete colchones y una frazada. このおもらしはたいしたことない，ただ，七枚の敷き布団と一枚の毛布がずぶ濡れになっただけだ”，“No es nada la meada, y calaba siete colchones y una manta, y hacía campanitas en el suelo. このおもらしはたいしたことない，ただ，七枚の敷き布団と一枚の毛布はずぶ濡れになり，床には小さな鐘の音が響いていただけだ”（小便の漏れる音—筆者），“No es nada lo meado; calaba siete colchones y nadaba un buey debajo. おもらししてしまったけど，たいしたことない，ただ，七枚の敷布がずぶ濡れになり，下では一匹の牛が泳いでいただけだ”，“No es nadilla,

y llegábale a la rodilla. たいしたことない、ただ膝まで浸っただけだ” (小便が—筆者) など、いずれも、本当は大変なことなのに、そんなことは大したことではないと、言いたい時に使う。

- 成句には同義で “¡No ea nada lo del ojo! そんなことは少しも問題でない、大したことではない” がある。イリバレン (El porqué de los dichos) によると; 非常に重要な事柄に対して誰かが取るに足りない事とする時に用いられる表現である。完全な文章は “¡No es nada lo del ojo... y lo llevaba en la mano! (直訳すると) 何でもない、この目のことは...そう言って彼はそれを手に持っていた!” で、大変な被害を語意反用 (語句を通常とは反対の意味に使うこと) を用いて誇張表現している。これは次ぎのような逸話から来ているとおもわれる、<ある者が、事故か喧嘩で片目を失い、皆が見ている前で、それを手に持って、そのような非常に大変な災難をほんのささいなこととしようとした>

1092. No es oro todo lo que reluce.

光るもの 必ずしも^{きん}金ではない

- 外観に惑わされてはならぬ、素敵だと思われるものでも、実際はそうではないことが多々あるから。(スバルビィ)
- コレアス諺集には異表現で “No es todo oro lo que reluce. 光るもの必ずしも金ではない” (“No es oro todo lo que reluce” を取り違えて言ったもの—コレアス), “No es todo oro lo que reluce, ni harina lo que blanquea. 光るもの、必ずしも金ではない、また、白く見えるものは、必ずしも粉ではない” などがある。
- イリバレン (El porqué de los dichos) によると、標題の諺は、ラテン語の格言 “Non omne quod nitet aurum est.” の (スペイン語) 訳で、“外見を信じてはならぬ” を意味するとしている。
- バロスによると、類義の諺には、“No es todo el monte orégano. / No todo el monte es orégano. いつもよい時ばかりとは限らない / すべてがたやすいことばかりとは限らない” (筆者の諺辞典, 諺 1097 を参照) がある。
- 例題 1 : ドン・キホーテ第二部 33 章, 主人よりもっときちがいの家来にどうして島が治められようかと公爵夫人が言うのに対してサンチョは、いくつもの諺で応酬する、そのうちの一つがこれである, “...y que no es oro todo lo que reluce, ...光るもの

がすべて金ではねえってことも、...”(続編二、永田寛定訳)ここでは、きちがいだと皆から思われていることを信じてはならぬ、外見と中身は必ずしも同じではないという意味でサンチョはこの諺を使っているようである。

- 例題2：ドン・キホーテ第二部48章、公爵夫人の老女ドニャ・ロドリゲスが、ドン・キホーテに言う、奥方さまの腰元のひとりであるアルティシドーラは、はでな子で評判であるが、“...， que no es todo oro lo que reluce；光るものみな金ならずって申します。”(続編三、高橋正武訳)
- 例題3：セレスティーナ第8幕、主人のカリストが、滔々と話す従者のひとりセンプロニオに、そのような学のあるところをお前に教えたのは誰かと尋ねた、それに対し、センプロニオは、“Señor， no es todo blanco aquello que de negro no tiene semejanza， ni es todo oro cuanto amarillo reluce. 旦那様、黒に似ていないものは、必ずしもみんな白とは限りませぬ。また黄色く光るものは、必ずしも黄金ではございませぬ。”(魔女セレスティナ、大島正訳)と答えた。ここでは自分が言ったことなどは本当はたいしたことではないという意に使っている。
- 例題4：セレスティーナ第12幕、以前、口約束でお金を上げると言っていたセレスティーナのもとにカリストの従者センプロニオが金をせびりに来た、セレスティーナはこう答える、“Pues ya sabes， Sempronio， que estos ofrecimientos， estas palabras de buen amor no obligan. No ha de ser oro cuanto reluce；...ところで、センプロニオや、お前さんはもう知ってるはな、こういう申し出とか、好意からでた言葉なんてのは、是が非でも守らねばならぬものじゃないのさ。光るものがみんな金ではないよ。”(魔女セレスティナ、大島正訳)ここでは、セレスティーナは、口先だけならどんなきれいごととも言える、実行しようとも思わぬ約束もできるという意で用いている。

1093. No es pobre el que tiene poco, sino el que codicia mucho.

ほとんど持たない者が 貧しいのではなく たくさん欲しがる者が
貧しいのである

- 持っているものに満足できない、いつも飢餓感に襲われている者が貧しいという、至極もったもな教え。“長者富に飽かず”がぴったりの諺。
- コレアス諺集に類義の諺“Rico es el que nada desea y el que nada debe. 何も欲

せず、何の負債もない者が金持ちである”，“Nada tiene el que nada le basta. 満足しない者は、何にも持っていないのと同じ”（筆者の諺辞典、諺 1020 を参照）が、バロス諺集にも“Ninguna cosa hace pobre al avariento sino lo riqueza. 強欲な者を貧しくするのは、財宝だけである”（筆者の諺辞典、諺 1045 を参照）が収載されている、また、ドン・キホーテ第二部 6 章にも“El rico no liberal será un avaro mendigo. 気前のよくない金持ちは、欲深な乞食と同じ”という格言が見られる。

- 例題：セレスティーナ第 1 幕、恋するカリストを利用してどんなやり方であろうと金欲しいというセレスティーナに対し、従者のバルメノがむしろ正直にしていって貧乏なのがいいと、諺を引用する，“Y aún más te digo, que no los que poco tienen son pobres; mas los que mucho desean. さらに言うておが、ほとんど持たない者が貧しいのじゃない、うんと沢山欲しい者が貧しいとね。”（魔女セレスティナ、大島正訳）
- 日本では、たいてい金持ちほど欲張りでけちであるという諺がいくつかある；“金持ち金を使わず”，“金持ち物を買わず”，“弁当持ち先に食わず”，“槍持ち槍を使わず”など、いずれも持っている者は、自分ではそれを使わないことをたとえていうが、結局、それは持っていない者と同じように貧しいということになる。

1094. No es tan bravo el león como le pintan.

ライオンは 大げさに言われているほど 獐猛ではない

- とても冷酷で恐ろしいと思われる人が、それほどでもない時、或は、思っていたほどには、仕事がそれほど大変ではなかった時などに使われる諺。（スバルビィ）物事が大げさに賞賛されている時に、そんなに言われているほどではないとたとえて言う。（バロス）
- 異表現には“No es tan fiero el león como le pintan. ライオンは、大げさに言われているほど恐ろしくない”が、また、同義の諺には“No es el diablo tan feo como le pinta el miedo. 悪魔は、恐怖によって描かれているほどには醜くはない”がある。この最後の諺は、日本でよく使われている“疑心暗鬼”（“疑心暗鬼を生ず”— 出典、列子）とびったり同じで、恐怖心とか不安なびくびくした気持ちが物事を恐ろしく思わせたり、疑わしく感じさせたりするのであるという。
- 何事も始める前は、不安な気持ちを抱くが、実際にしてみたらそれほど心配していた

ほどではなかったという経験が誰にでもあるだろう。“案ずるより生むが易い”ということわざは、上記のスパルビの“仕事”の解釈と同じで、いろいろ思い悩むより、まずやってみよとおしえている。

1095. No es tan gruesa la gallina, que no haya menester a su vecina.

メンドリは 隣人を必要としないほど 太っていない

- どんなに勢力があろうとも、他者の助けなしでは生きていくことはできないというたとえ。(パロス) 勢力ある大物は小物を必要とし、王様は家来を必要とする。(コレアス)
- スペインの諺をたとえなしにそのまま言い表しているのが、こちらの“世は相持ち”(この世の中は、互いに助け合うことで成り立っているものである)、“世の中は持ち合い持たれ合い”、“世は相身互い”などである。

1096. No estar para dar migas a un gato.

猫に パンくずをやるほどの 気力もない

- 何に対しても気力がでない状態を言う。
- スペイン王立アカデミー辞書によると、“no estar uno, o no ser, para dar migas a un gato. 虚弱であるため、或は能力がないためにほとんど役に立たない人、役に立たない状態にあることを隠喩的に言う。
- 例題：ドン・キホーテ第二部 66 章、ある村で百姓に知恵を貸してくれと声をかけられた主従、そこで、“Responde en buen hora-dijo don Quijote-, Sancho amigo; que yo no estoy para dar migas a un gato, según traigo alborotado y trastornado el juicio. <抜かりなく返事をさっしやい、友のサンチョ>と、ドン・キホーテ。<わしはいま頭の中が動転、大騒動をやっておるので、横のものを縦にする気にも、猫にパンくずをやる気にもならぬ>”(続編三、高橋正武訳) 注：“Yo no estoy para dar migas a un gato. —No tengo fuerzas ni para...何に対しても気力がでない。— Martín de Riquer de la Real Academia, Don Quijote de la Mancha, Volumen II”

1097. No es todo el monte orégano.

いつもよい時ばかりとは 限らない

- イリバレン（格言の由来）によると；仕事というものは利益を得るばかりではなく，人が想像している以上に困難なことが起こるものであるという意味である。これ（見出しの諺）は，古い諺“Quiera Dios que orégano sea y no se nos vuelva alcaravea. (物事が) 順調にいきますように，われわれの期待を裏切りませんように！”からきたものである。人が期待している，或は，望んでいることと反対の事が起こることに対する恐れを言う。“orégano (オレガノ)”とは，多年生のシソ科芳香植物で，その葉や花はローション，香辛料などに用いられる。また，“alcaravea (ヒメウイキョウ)”とは，セリ科植物で，その花や実は香辛料に用いられる。注：古い方の諺の直訳は，“神様，どうかオレガノにしてください，ヒメウイキョウに変えませんか！”
—筆者
- スペイン王立アカデミー辞書によると；<no es orégano todo el monte.>-比喩的表現で，どんな事もいつも容易く，楽しいとは限らないという意で，<orégano sea>は，比喩的，口語的表現で，仕事とか計画していることが悪い結果になることに対する危惧の念を言い表している。
- 例題1：ドン・キホーテ第一部21章，サンチョは，一晚中羊毛の布を打ち続けていた布ざらし水車のもすごい音に怯えきっていたので，こう叫ぶ，“...；mas quiera Dios -tornó a decir-que orégano sea, y no batanes. けれど，もう一ぺん言うだが，どうぞ，神様，マヨラナ（オレガノ—筆者）にしてくだせえ，布ざらしにしねえで！”（正編二，永田寛定訳）注：諺の全文は<Quiera Dios que orégano sea y no se nos vuelva alcaravea. 神様，どうかオレガノにしてください，ヒメウイキョウに変えませんか！>で，同じ香草でも，オレガノのほうがずっとヒメウイキョウより高い評価をえていた。—Martín de Riquer de la Real Academia, Don Quijote de la Mancha, Volumen I.
- 例題2：ドン・キホーテ第二部36章でも，先と同じく，古い諺からきていると思われることばが次ぎのように公爵夫人の口からでる，“...；la otra es que se muestra en ella muy codicioso, y no querría que orégano fuese；...もう一つの点は，お手紙の中で，大へんな欲張りにお見えなさることです。どうぞ，マヨラナであっていた

だきたいわね。”(続編二, 永田寛定訳) 注: <Quiera Dios...>ということわざの引用で, 物ごとが望みどおりに運ぶように, 反対の結果にならないように, との願望である。—永田寛定, 正編二, ドン・キホーテ, 注135。

1098. No falte cebo al palomar, que las palomas ellas se vendrán.

ハト小屋に 餌があれば ハトはやって来るだろう

- 利益があれば, その他の事はひとりでにやってくるということ。(パロス)
- 例題: ドン・キホーテ第二部7章, 奉公する間, 給金が欲しいというサンチョに, わしの当てがいぶちに不承知ならばむかしの友だちづきあいになるまでじゃ, とドン・キホーテが諺を口にする, “...que si al palomar no le falta cebo, no le faltarán palomas. 鳩小屋に餌があるならば, 鳩は寄ってこようからな。”(続編一, 永田寛定訳)
- 利益があるところには, 自然に人が集まるということで, 類義の日本の諺には“甘い物には蟻がたかる”がある。

1099. No falte voluntad, que no faltará lugar.

^{こころざし}志があれば 好機に恵まれるだろう

- ただ待っていても良い機会はやって来ない, やってやるぞという強い意志が好機をもたらすのである。現在, 良いチャンスに恵まれず, 不遇を嘆いている者に対しては励ましの言葉となろう。
- そうはいつでも, 日本には“孔子も時に遭わず”というような諺がある。これは, どんな有能な人でも機会にめぐり合わなければ才能が開花しない, また, どんな立派な人でも世時に合わなければ埋もれてしまうことのとえである(ことわざ辞典, 岩波)。こうして見ると, いくら意志が強く, 能力があっても, 機会が与えられないと才能は発揮できないであろう。“^{うんこんどん}運根鈍”と言われているように, 成功するために一番大切なのは, 幸運をつかむことではないだろうか。

1100. No fies de la fortuna, mira que es como la luna.

幸運を信じるな ほら, 月みたいだから

- パロス(諺集)によると, 幸運というものは, 女の資質のように変わり易いものであ

る。また、これは、“月満つれば即ち虧^かく”（史記）と全く同様の比喻を用いていて、月が満月になれば次第に欠けていくように、何事も（むろん、幸運も）盛りに達すると必ず衰えはじめるというたとえである。こちらでは次ぎのようにいろいろな言い方で同じことを言っている；“十分はこぼれる”，“満は損を招く”，“大吉は凶^{かえ}に還る”など。

- セレスティーナ、第9幕では、女衞のセレスティーナが同じように他の諺を使ってこの世の変わり易さについてこう嘆いている，“La ley es de fortuna que ninguna cosa en un ser mucho tiempo permanece; su orden es mudanzas. どんなものだって、一つの状態に止っていないというのが、世の定め、掬みたいなものよ。変るといいうことが、その秩序なんだわね。Proverbio es antiguo, que cuanto al mundo es, o crece o decrece. Todo tiene sus límites, todo tiene sus grados. 古い諺にも、世の中のこつてのは、ふえるか減るかのどっちかだ、とあるわさ。どんなものにも限界があり、段階があるもんよ。”（魔女セレスティナ、大島正訳）

1101. No hables sin ser preguntado y serás estimado.

訊かれなければ 話すな そうすれば 好かれるだろう

- 分別のある話しかたは、とても大切な天からの恵みである。（スバルビィ）
- コレアス諺集には異表現で “No hables sin ser preguntado, y serás estimado; o si quieres ser estimado. 訊かれなければ話すな、そうすれば、好かれるだろう；或は、もし好かれたければ” が見られる。
- 類義の諺には “Al buen callar llaman Sancho. かしこい沈黙をサンチョと呼ぶ”（筆者の諺辞典、諺 47 を参照）ここでも同様に、話しかたが慎重であり、控えめであることが賢い人のすることであるという。
- 日本の諺にも同義で “伶俐なる頭にはとじたる口あり” があり、賢い人は、言葉を慎んで、つまらぬことを言わないと謳っている。

1102. No hace poco el que quema su casa: espanta los ratones y se calienta a la brasa.

鼠どもを追っ払ったり 火で体を温めるために 家を燃やすのは
とても損である

- わずかの利益のために大きな損害を招く者をたとえている。(コレアス) コレアス諺集には、異表現で次ぎのように出ている；“No hace poco quien quema su casa: espanta los ratones y él se escalcienta a la brasa. 鼠どもを追っ払ったり，火で体を充分温めるために，家を燃やすのは，とても損である”，“No hace poco quien su casa quema: espanta los ratones y escaliéntale leña. 鼠どもを追っ払ったり，薪で暖まるために，…同上”など。注：“escalentar は，古語で calentar con exceso-充分に温める”一筆者
- 少ない元手で大きな利益を得る意の“蝦で鯛を釣る”という日本の諺はまさにこれとは反対の諺である。また，ニュアンスは異なるが表現が似ているこういう諺もある；“火事後の釘拾い”，“焼け跡の釘拾い”これらは，火の不始末から，全てを焼いてしまった後で焼け釘を拾う意で，大きな散財をした後でわずかばかり節約しても何にもならないをたとえている。(故事ことわざ活用辞典)

1103. No hace tanto la zorra en un año como paga en una hora.

狐は一時間で償うほどの たいしたことを 一年の間していない

- ちょくちょくと罪を犯したり，乱暴なことをしてかしたりしていた者が，長い間罰せられずにすんでいたが，思いもしなかった時に，全部いっしょに罪を償うはめになった，それも罪にたいして行き過ぎと思えるほどの罰を受けることをいう。(スバルビィ) 償わなければならぬ罰が，犯した罪に相当しないような時に使われる。(パロス)

1104. No hagas bien al malo y no te dará mal pago.

悪いやつには よくするな そうすれば 恩を仇で返されずにすむ

- 悪意のある者にいくら良くしても，感謝されるどころかひどいことをされて迷惑を蒙るだけだから，何もしないほうがよいという教え。
- 同義の諺には “El hacer bien a villanos es echar agua en la mar. 心卑しき者に善

なすは、大海に水を注ぐがごとし” (筆者の諺辞典, 諺 641 を参照), “Hacer bien donde no es agradecido es bien perdido. 感謝なきところに善を施しても無駄である”, “No hagas bien a villano, no bebas agua de charco, no te cases con sardana ni con pitalgada. 心卑しき者によくするな, 水たまりの水を飲むな, そばかすだらけの女とも, 乱ぐい歯の女とも結婚するな” (sarda-pecosa そばかすだらけの女, pitalgada- 上の二つの歯の間にすき間がある女—コレアス諺集) などがある。しかし, 反対の諺もいくつかある; “El hacer bien nunca se pierde. 情けは人の為ならず”, “Hacer bien y no mirar a quién. だれにでも人には情けをかけよ” (筆者の諺辞典, 諺 641 を参照)

- 日本には, いろいろ世話になった人の恩義を忘れるばかりでなく, かえって酷い仕打ちをするような人をいう次のような諺がいくつかある; “後足で砂をかける”, “飼い犬に手を噛まれる”, “恩を仇で返す” など。それよりは, 初めからそういう人とはかかわりをもたないほうがよいとたとえていう “触らぬ神に祟りなし”, “触らぬ蜂は刺さぬ”, “近寄る神に罰当たる” などの諺の方が, 見出しのスペインの諺に近い。

1105. No hallar nidos donde se piensa hallar pájaros.

鳥がいたと思っていた所には 巣もなかった

- ずっと思い続けていた期待が裏切られた時の落胆の気持ちをたとえていう。(バロス)
- 或は, 世の中の変遷の激しさをたとえている諺には, “En los nidos de antaño, no hay pájaros hogaño. 昔の巣には, 今は鳥がない” (筆者の諺辞典, 諺 552 を参照), “No hallar pájaros en los nidos de antaño. 昔の巣には, 鳥がない” などがある。いずれも人の世の無常, 命のはかなさ, 短さ, 切なさを謳っている。また, バロスの解釈と類義の諺には “Esperanza larga aflige el corazón y el alma. 待ちくたびれた期待は, 心も魂もくたくたにする” (筆者の諺辞典, 諺 589 を参照) がある。
- 人の命のはかなさ, 悲しみを謳う日本でよく使われていた諺には “朝に紅顔ありて夕べに白骨となる”, “年年歳歳花相似たり歳歳年年人同じからず” などがある。

1106. No han de faltar ni rey que nos mande, ni papa que nos excomulgue.

われわれに命令する王様も われわれを破門する法王も
いなくなることはない

- 人というものは、どんなに全てから自由になりたいと願っても、常に強者の主張に従わなければならない。(パロス)
- 類義の諺には “Allá van leyes do (donde) quieren reyes. 強者の主張が法となる”, “Mandan al mozo, y el mozo al gato, y el gato a su rabo. 主人は小僧に、小僧はネコに、ネコはしっぽに命じる” (筆者の諺辞典, 諺 812 を参照) などがある。この序列制度の世の中では、より強い者が弱い者を支配し、従わせるようになっている。常に誰かから命じられているのがわれわれ人間であるということ。
- 日本の類義の諺には “駕籠^{かご}に乗る人担ぐ人, そのまた草鞋^{わらじ}を作る人” がある、鎖のように絡み合っている社会における力関係では、一番最後の鎖の輪にはより劣等な者が繋がっているということをととえている。

1107. No hay amigo ni hermano, si no hay dinero de mano.

友も兄弟もいない もし金がなければ

- 頼まれた時に、すぐに融通できる金がなければ友人も親戚も寄り付かないということ。一般的に、世の中は、金銭の利害損得で繋がっていることが多く、金がなくなると付き合いがなくなるのが常であるという意。
- コレアス諺集には、同義の諺で, “No hay amigo para amigo, ni hijo para padre, ni padre para hijo. 友人に友人も、父親に息子も、息子に父親もいない” (友人とか親子の間柄でさえも純粋な関係ではなく、利害損得で繋がっているということ、故にいざという時には頼りにならない—筆者), “No hay hermano para hermano, ni padre para hijo, ni hijo para padre. 兄弟に兄弟も、息子に父親も、父親に息子もいない” (前の諺と同じ意) などがある。また、類義の諺には “La madre y la hija, por dar y tomar son amigas. 母と娘, 上げたりもらったりで、友だち同士” (互いに上げあうといったような利害関係がなければ、ただ血が繋がっているだけでは、仲のいい友だち関係にはならない—コレアス, 筆者の諺辞典, 諺 786 を参照)

- スペインの諺とびったり同義の諺には“金錢は親子も他人”，“親子の仲でも金錢は他人”，“金に親子はない”などがある。こと金錢に関しては，親子の仲でも他人のように水臭くなるのが人の常であるということ。類義では，“愛想づかしも金から起きる”，“金の切れ目が縁の切れ目”，“夫婦喧嘩もないから起こる”などがある。

1108. No hay amigo para amigo: las cañas se vuelven lanzas.

友に友などない 葦も槍となる

- 冗談で始まったことが，時には本気になったり，大変なことにまでなること。(スペイン王立アカデミー辞書) ささいなことが大きなことになる。(西和中辞典)
- 旧約聖書，シラ書には，友人についてまさにこう語っている；“Todos los amigos dicen: <Soy tu amigo>, pero hay amigos que lo son sólo de nombre. ¡Qué golpe tan mortal cuando un amigo íntimo se vuelve enemigo! 友人は皆こう言う。<わたしも君の親友だ。>しかし，名ばかりの友人もいる。仲間や友人が敵に回ってしまうのは，死ぬほどの悲しみではなからうか。(37-1-3) El mal amigo se fija en la mesa, pero cuando estás en aprietos, se mantiene lejos. El buen amigo lucha contra tu enemigo y te defiende de los que te atacan. No te olvides de tu compañero en la lucha, ni lo abandones al recoger el botín. 友人がうまくいっているときは調子を合わせ，不運のときには，顔を背ける仲間もいる。自分の腹を満たすただけに苦勞を共にしているような仲間は，いざ戦いとなれば，盾を取って身を隠す。友人をお前の心に留め，裕福なときにも彼を忘れてはならない。(37-4-7)”
- 例題：ドン・キホーテ第二部，12章，ドン・キホーテの著者が，この本にでてくるろばとロシナンテとの友情があまりにも親密であると述べた後で，それに比べて人間は互いの友情を持ち続けることがあまりにも下手であると，ロマンセを引用する，“Por esto se dijo: No hay amigo para amigo: las cañas se vuelven lanzas. <友に友などあるものか，葎もたちまち槍になる>と言われたことだし，...”(続編一，永田寛定訳) 注：標題の諺はコレアス諺集(17世紀)に収載されているが，永田寛定によると，ヒネス・ペレズ・デ・イータの<グラナーダの内乱>(1595)で詠まれているロマンセだそうである。
- 友人についてこういう諺もある。“No hay amigo tal, como pariente en el mal. 困った時における親類のような友はいない” いざという時に頼りになるのは血の繋が

りがある身内であるという意で、“血は水よりも濃い”ということ。また、スペインの標題の諺に類似しているのが“昨日の友は今日の仇”，“昨日の友は今日の敵”であろう。いずれも友情の絆のもろさ，人の心の変わりやすさを謳っている。

1109. No hay bien ni mal que dure cien años.

良いことも 悪いことも 百年は続かない

- 人の世の移ろい易さ，はかなさをいう。(パロス) この世では，不運も幸運と同じようにいつかは終わるのだからと，苦しんでいる人を慰める時に用いる。(スバルビィ)
- コレアス諺集には，異表現で “No hay bien que dure, ni mal que a cien años llegue y ature. 良いことは続かない，また，百年続く悪いこともない”，“No hay bien que dure, ni mal que no se acabe. 良いことは続かない，終わりのこない悪いこともない”，“No hay mal que cien años dure, ni bien que a ellos ature. 百年続く悪いこともないし，百年続く良いこともない”，“No hay mal tan leve, o grave, que no acabe, o se acabe. 些細な悪いことであれ，重大な悪いことであれ，いつかは終わる “などがある。これらの諺の意味を考えると，スバルビィがコメントしているように，不運な状況にいる人に対する慰め，励ましの言葉ととることができる。類義の諺には，“A cabo de cien años, todos seremos salvos (o calvos). 百年も経てば，誰でも禿げになる” (筆者の諺辞典，諺7を参照。死は誰のところにも同じようにやってくる，特に不平等な人間の運命に対しての慰めとして用いられる一筆者)，“De oy en cien años todos seremos calvos. 今日から百年経つと誰でも禿げになる” (コバルビアス，宝典)，“No hay cosa que fin no tenga a la corta o la lengua. 短かろうが，長かろうが，終わりのない事は何もない “などがある。
- どんなことにも終わりがあがる，また，この世のありさまは常に移り変わっていくという意でこちらにも，“生ある者は死あり”，“生者必滅”^{しょうじょうひつめつ}，“有為転変の世の習い”^{ういてんべん}，“禍福は糾える縄の如し”^{あざな} など，多数の諺がある。

1110. No hay caballo sin tacha.

あらゆる馬には 悪い癖がある

- あらゆること，あらゆる人間について言うことができる。(パロス)
- コバルビアスの宝典には異表現で “No ay mula sin tacha. あらゆる (雌の) ラバ

には、悪い癖がある”が見られる。コバルビアスによると、“このラバは雌なので、雑多な種の混合によって生まれている、故に、たいてい、いくつか悪い癖がある。”

ここで使われている“tacha は, falta と同じく、欠点、きず、短所などの意”

- 類義の日本の諺には、“無くて七癖”，“人に一癖”，“人に七癖我が身に八癖”^{やくせ}と言われているように、誰でも一つや二つ、必ず癖も持っているということ。スペインの見出しの諺と同じように馬にたとえているのがいくつかある；“人に人癖馬に馬癖”，“跳ねる馬は死んでも跳ねる”（悪い癖はなかなか直らない），“噛む馬は死ぬまで噛む”など、他の動物と比べて馬には、こういう癖が顕著に表れるのであろう。

1111. No hay camino tan llano que no tenga algún tropezón o barranco.

つまずきのない 平らな道などはない

- 一見手に入れるのが容易く見えようとも、常に人には苦勞がつきまとうものである。（スバルビィ）あらゆる仕事には、人がどんなに才覚を働かせようとも、困難がつきものである。（バロス）
- 同義の諺には、“No hay atajo sin trabajo. 努力なしの近道はない”，“No hay barranco sin atranco. ぬかるみのない峡谷はない（難しい企てには障害はつきものである）”，“No hay atajo sin trabajo, ni rodeo sin deseo. 努力なしの近道も、希望なしの回り道もない”，“No hay cuesta sin valle, ni valle sin cuesta junto a él puesta. 道中では溪谷のない坂道も、坂道のない溪谷もない（欲するものを手にいれるためには苦勞がつきものである—バロス）”，“No hay ciencia sin trabajo. 努力なしには、学は得られぬ”，“Nunca dejes el camino llano por el atajo. 近道をするために平らな道を離れるな（たいてい、近道には障害物があるから）”などが見られる・
- 例題：ドン・キホーテ第二部 13 章，遍歴の騎士，ドン・キホーテに仕える従士サンチョと森の騎士の従士とが，互いの主人を批評し合い，そして，互いを慰め合う “— No hay camino tan llano—replicó Sancho—que no tenga algún tropezón o barranco; en otras casas cuecen habas, y en la mía, a calderadas;...<どんなにいい道だって>と，サンチョが言った。<つまずかせや落ちこみが，まるでねえのはねえ。よそさまで空豆を煮る，うちじゃ大鍋で何ばいもね。...”（続編一，永田寛定

訳)

- 何かを成し遂げるには精進と努力が必要である、それが芸の道であっても、学問でも、事業でも同じことである。近道などないと、次ぎのような諺がそのことを教えてくれる；“顎振り三年”（尺八で顎を振る練習だけでも三年かかるということ），“学問に王道なし”（学問を修めるのに楽な方法などない），“辛抱する木に金がる”，“かんなん艱難汝を玉にす”（多くの困難や苦勞を乗り越えてこそ，人は成長して立派になる）などをここに挙げたが，目的を果たすためには人は苦勞を重ね辛苦に耐えて努力しなければならぬとおしえる諺はまだまだ多数ある。

1112. No hay cerradura, si es de oro la ganzúa.

もし こじ開け道具が金なら 閉める鍵はない

- 金さえあれば何でも開けられる。（コレアス）
- “Poderoso caballero es don dinero. 強力な殿様は，ドン・マネーである” と同義の諺。（バロス）
- コバルビアスの宝典には “No ay cerradura donde es de oro la ganzúa. 同訳” が，収載されている。
- ドアの鍵であれ，金庫の鍵であれ，金に抵抗できるものは何もないと金の威力について言う。標題と同義の諺には “Asno con oro, alcánzalo todo. 黄金を積んだロバは，何でも手に入れる”（筆者の諺辞典，諺 97 を参照），“El dinero es caballero. 金持てば殿様”（同辞典，諺 420 を参照），“Un asno cargado de oro sube ligero a una montaña. 黄金を積んだロバは，らくらくと山を登る”，“No hay lugar tan alto que un asno cargado de oro no lo suba. 黄金を積んだロバが，登れぬほどの高いところはない” などがある。
- 世の中のことは，すべて金さえあればどうにでもなることを諷う諺はこちらにも多数あるが，よく知られているのが “地獄の沙汰も金次第”，“金が物言う”，“金の光はななひかり七光” であろうか。



Loyola (スペイン)